



第 26 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545) 55-2851
(0545) 55-2852
FAX (0545) 53-4633

三輪消防車復元プロジェクト



三輪消防車に
在りし日を感じて

第8分団 団員 野中 太郎
一ツ山産業(株)勤務

富士市消防団第八分団二年目の団員、野中太郎です。生まれと育ちはブラジルの首都、ブラジリア。二十一歳の時に日本にやってきました。それまでは、家でトラックや農業用トラクターの修理工をやっていたので、手や爪の間はいつも黒く染まっていたので、手や爪の間はいつも黒く染まっていたので、廃油やグリス等のおいが漂っている中で育ってきました。

日本で生活している中で、消防団というものの中には縁がないものだと思っていました。おまけに火事はとても怖くて良いイメージがありません。何度も誘って頂いたのですが、お断りをしていました。きっかけとなったのは、消防団は火を消すことだけが仕事ではなく、火災を起こさないために努力をしていること、災害時に地域の皆様を安全にすることを第一に頑張っていること、そんな話をしてくれた八分団の仲間に心惹かれたことです。

平成28年
富士市 消防出初式
写真コンテスト 優秀作品

そして今、三輪消防車復元プロジェクトに参加を始めました。三輪消防車は昭和三十年代に作られたレトロな物で、放水能力は現代の消防ポンプ車と同じくらいです。職人芸とも言えるパーツを一つ一つ丁寧に組み上げられている非常に美しい物です。修理している風景を見ると、タイムスリップしたかのように幼い頃を思い出します。とても懐かしい気持ちになります。今は、この三輪消防車でポンプ操作や火災予防運動を実施することを目標とし、富士市消防団を盛り上げていこうと思っています。



市長賞「式典スタート」川口 廣男



議長賞「観閲」池田 智昭



消防長賞「出初めファンファーレ」荻田 長蔵



防火協会会長賞「一斉放水」野口 勝子



消防団長賞「富士市消防隊三輪組」仁藤 政孝

富士市消防団ラッパ隊

富士市消防団ラッパ隊

団本部 ラッパ隊長 佐藤重孝
中之郷 在住

ラッパを見たことがありますか？
ラッパ隊の演奏を聴いたことがありますか？
幕末、フランス人教官に信号ラッパを習った幕府軍の歩兵が日本で最初のラッパ手ではないだろうか。諸説あるだろうが、消防のラッパもそこから旧陸海軍を経て受け継がれてきたのでしょうか。

金属管を丸めて片方の端を朝顔の様に広げた形も、反対側から息を吹き込んで音を出す用法も、昔から何も変わっていません。上手になるのに楽な方法など一つもなく、幕府軍の歩兵と同じ苦労をしています。

昔はラッパやホルンを吹いたり、鐘や太鼓を打ち鳴らすしか情報を伝える手段が無かったけれど今は違います。

万民に普及し、生活必需品となったパソコン、携帯電話等を使って、様々な情報を得ることも発信することも瞬時にできる時代です。

消防の機器や装備もハイテク満載の消防ポンプ自動車、新素材を使用した防火服等が配備されています。

技術の進歩は目覚しく、従来、人の手で行っていた作業もコンピュータ制御された機械が代わりにやってくれます。多くのものがマニュアルどおりに取り扱えば誰でも簡単に使用することができますが、ラッパは駄目です。駄目なんです。依然として変わることもなく、人が息を吹き込まなければ音はできません。

未経験の新人は大変です。なんとか音は出せるようになったとしても、思いどおりに操り、楽曲を演奏するには程遠く、どんな音が出るのか出してみなければわからない。練習は長く感じても本番はアツという



間に過ぎていきます。
ラッパ隊の出演は、新春恒例の出初式、夏は富士まつりの音楽パレード、秋は消防まつり、年末恒例の富士山女子駅伝など様々です。皆さん、ラッパ隊の姿をみかけたら、ぜひ応援よろしくお願ひします。

分団長会議研修

分団長会議研修

第5方面隊長 永戸俊光
宮島 在住

今年度の視察研修は、四年ぶりで、以前とは違い、すべて消防団が企画運営を行いました。研修の名称も行政視察研修から分団長会議研修と改め実施しました。実施にあたり、担当の副団長を軸に、総務部長・副総務部長・各方面隊長が、委員会を数回開催し、研修先の選定・日程調整や役割分担等を話し合い、前橋防災センター等に研修先を決めました。

最初の研修場所として、昨年世界遺産に登録された「富岡製糸場」を見学しました。日曜日でもあり、観光客でこった返し、富士地区では見たことのない、養蚕から得た繭玉を絹糸にする機械を見学することができ、子供のころ母方の実家での養蚕を思い出し、懐かしく思いました。宿泊先は、草津温泉を選定し、にこり湯に浸かり、二日の疲れも取れました。



二日目は時間通り八時半に出発し、以前に国会で建設の是非で揺れた八ツ場ダム建設地付近を車中から見学しました。その後、水沢観音を参拝し、最後に前橋市防災センターの研修を行いました。はじめに会議室に通され、前橋市の消防団の実情として、実人員数・消防機材の現有数・消防団員確保の方策・火災等の指令方法を詳しく説明していただき、富士市との相違点の確認をすることができ、とても参考になりました。その後は、通信指令課を室外から見学し、煙体験・消火器訓練をさせていただきました。初心に戻った気がしました。

時間通り六時半に富士市に到着し、事故も無く無事に研修を終えることができました。三日間とも晴天に恵まれ、参加者の協力もあり、時間通りの研修を実施することができ、大変充実した二日間でした。最後に、今後もこのような研修旅行ができるようにしていきたいと考えます。



2015年「身近なヒント発明展」

大賞受賞

第14分団 副分団長

田村和浩さん



発明したスライドターンリュック

「スライドターンリュック」はリュックを背負ったまま、中身が出し入れできる。リュックの下部が横にスライドし、さらに前へ九十度回転する仕掛けです。

平成二十八年富士市消防出初式



出初式

第2分団 団員 今野 英男
荒田島一丁目 在住

平成二十八年一月十日、富士市役所にて富士市消防出初式が行われました。消防団入団後、私にとっては七回目の出初式を迎えました。一度体調を崩して欠席したこともありましたが、あとの六回は毎年参加させていただき、私にとっては消防団活動の年頭の大切な行事としてすっかり定着しました。出初式というと、毎年とにかく「寒い」印象がある一方、天気はいつも晴天に恵まれることが多いと思います。今年も晴天に恵まれ、寒さも例年に比べると比較的穏やかな気候の中、制服制帽に身を包み式典に臨みました。式典では、各地で起こった災害や火災の発生状況を耳にし、その後大勢の市民の皆様の見守る中、青葉通りを分列

行進しました。消防操法や救助の模範演技を見学し、最後の一斉放水にも放水手として参加させていただきました。青空に向かって市内の消防団が一斉に放水する様はまさに壮観でした。

毎年、出初式に参加する度に消防団員の果たす役割や期待の大きさを改めて認識させられます。一年の活動を始めるにあたり、身が引き締まる思いがしました。

出初式と時を同じくして、今年も年明けより冬季特別警備として夜警を行っていきます。出初式で感じたことを胸に、地域の安全と防災のために消防団の一員として日々頑張っていきたいと思えます。



平成二十八年 富士市消防出初式

第21分団 分団長 渡辺 芳正
厚原 在住

消防団活動三十年の節目に分団長として富士市消防出初式に参加することができました。

分団長としては二回目の出初式でしたが、昨年は仕事の都合で欠席することになってしまいました。

我々第二十一分団は全団員十七名と少数精鋭ではありますが、今年には十五名の団員が参加することができ、大変うれしく思っています。

今年も昨年同様、全団員と協力し消防活動を行っていききたいと思えます。

今年も昨年同様、全団員と協力し消防活動を行っていききたいと思えます。



訓練大会



「訓練礼式右翼を終えて」

第8分団 部長 清水 理史
南清水精工 経営

私たち第八分団に訓練礼式の右翼・左翼の要請があり、数ある立候補者のなか、私が右翼を務めさせて頂くことに決まりました。列員としての訓練経験を活かしたいと思ひ、期待と不安を胸に訓練初日を迎えました。実際に訓練が始まると、予想を遥かに超える驚きの連続でした。隊の先頭に立つ右翼として全体の動きを導く責任の大きさを痛感し、様々な重圧に悩みました。

しかし、指導員の方々の熱心なご指導、特に支部大会への訓練は指導員の富士市を勝たせたいという熱い気持ち伝わってきました。私も列員も自分から質問を投げかけ指導して頂くようになり、また、訓練が無い日も左翼の内海班長と歩調を合わせる練習を重ねました。

指導員と隊全体が支部大会優勝を目的とする一致団結した訓練ができ、ほぼ全員が皆勤賞という素晴らしい出席率を達成することもできました。

そして迎えた支部大会当日、準備線に入り押し寄せる緊張感のなか、指揮者の「集まれー」、「二十三歩」、「基準ー」の発声。いつものまにか緊張も取れ、歩調も速くならず、次々と動作が出来ました。そして最後の「わかれ！」終わった後の列員同志の握手、そして指揮者、指導員、方面隊長：何人と握手をしたのか覚えきれない程です。結果は残念でしたので悔しい思いもありましたが、この達成感を味わいたくて選手になり、訓練してきたような気がします。

これからもこの気持ちを忘れないように、分かち合った仲間たちと共に消防団活動に日々励んでいきたいと思えます。

最後に、第三方面隊をはじめご協力頂いた他の方面隊の皆様、団本部の皆様のご指導、指導員の皆様の熱心なご指導、誠に有難うございました。





第29回 消防まつり

Fire Fighting Festival

消防まつり

第1分団 団員 神山 英範
 榎長倉製作所 勤務

秋の火災予防運動が実施され、その行事の一環として十一月十五日に消防まつりが開催されました。

私たち第一分団では、毎年焼きそば、魚の干物、ジュースの販売をしています。今回は焼きそばにトッピングとして目玉焼きを追加、更にコーヒードリンク、タコスの販売もを行いました。去年までと比べて販売する品も増え、目玉焼きをのせた事で見た目も豪華になり、今までで一番の出来だったのではないかと思います。

当日の朝は雨が降り、来場者の方が少なくなるかと思われましたが、消防まつり開催時には雨もやみ、多くの方が来場してくれました。

売り上げの方は好調で、特に焼きそばはお昼過ぎには完売してしまいました。魚の干物も毎年販売している事もあり、順調なペースで売り上げを伸ばし、完売しました。今年から販売を開始したタコスは、味もさる事ながら、今まで販売していなかった目新しさから手を伸ばす方も多く、結果的に全ての商品を完売する事ができました。

販売時は多忙を極め、休む暇もありませんでしたが、多くの来場者の方々の笑顔を見る事ができ、また第一分団としては、この行事によって団結力・結束力が増し、素晴らしい一日になったと感じています。

これから冬の季節に差し掛かり、火災の発生が心配されます。私たち消防団員は火災予防として夜警巡回し、地域の安全を守っていきます。

これからも地域の皆様の期待に沿えるよう、頑張っていきたいと思っております。



消防まつり出店コンクール 優秀賞

団本部	ゆで卵・バルーンアート
第11分団	草もち
第4分団	飲茶
第24分団	射的
防災危機管理課	起震車体験・パネル展示



私は、今年消防団に入団し初めての消防まつりの参加となり、とても楽しみにしていました。当日は、雨がパラパラと降る小雨の中での開催となりました。

我ら第二十分団は、蒸し器で温めたあたたかい肉まん、おいしいピーフシチューを目玉に販売を行いました。小雨のため、なかなか思うようにいきませんでした。プログラムにある園児による演目が始まるころ、園児の元気な演奏にお天道様も顔をのぞかせ、次第に天気も回復をしていきました。そこからは来場者も増え、会場全体が盛り上がり、盛大に消防まつりは終わりを迎えることができました。

これから空気が乾燥し火災が起きやすくなる季節ではありますが、火元に注意をしましょう。また消防団員としての経験は浅いですが、今後も地域に貢献をしていきたい。

消防まつり

第20分団 団員 市川 雅祥
 岩松 在住



防火ポスター優秀賞受賞者(中学生)



防火ポスター優秀賞受賞者(小学生)

消防団員ソフトボール大会



ソフトボール大会

第30分団 分団長 望月 雅弘
(有)マツノ商会 経営

前回のソフトボール大会は、優勝した第七分団に、最終回一点差ツーアウト満塁まで詰め寄りながら、あと一点がとれず、一回戦敗退となり悔しい思いをしたので、今年こそはと挑んだ大会でした。

二回戦は、第三分団。初回から守備が乱れ、ホームランを打たれ、攻撃では、三者凡退を繰り返して、二回を終わって七点差。コールド負けも覚悟したが、三、四回あたりから相手に点を与えず、急に打線がつかなくなり一点差まで追いつき、最終回に見事逆転サヨナラ勝ちを収めた。

次の対戦は、消防団本部。初回簡単にツーアウトを取り、楽勝かなと思ったが、そこからアウトを取れず、またもや大量のリードを与える。打っては榎屋副団長の魔球に翻弄され、平均年齢が高い消防団本部に負けられないと、力めば力むほど凡打の山を築き、結局大差の負け。完敗でした。やはり勝てばうれしいし、負ければ悔し

い。来年は守備もバッテリーングもしっかり練習して挑もうと思う。

団員の意外な好プレー、珍プレーなど、普段見られない姿をみることで、集まりがあつた時の話が種が今回もたくさんできたとおもいます。楽しくプレーでき、団員の団結につながる大会になりました。



富士市消防団員ソフトボール大会

第26分団 班長 斎藤 勝正
下五貫島 在住

ここ三年間、ソフトボール大会をやった記憶がない。それというのも、天候不順でことごとく中止を余儀なくされたからである。今年は、大会を九月第四週の日曜日という、秋晴れの可能性の高い時期に設定されていた。

しかし、時期的に、小中学校や各町内会の体育祭と重なる結果になってしまった。全三十一個分団中十九個分団の参加しか得られず、我が第二十六分団も例外ではなかった。「ききょうの里体育祭」と重なり、少ない団員のほとんどが、町内の選手として体育祭

に出場しており、棄権せざるを得なかった。今回のようなケースは、消防団の恒例の行事とはいえ、町内や学校行事を優先することはごく自然のことであると思う。残念ではあるが、今後のことを考えて思い切った日程の調整が必要ではないのか。たしか、昨年は九月の第一週で、同様のケースがあつたと記憶している。残念なことに雨天中止になったのだが、九月時期の開催が難しいことは、十分理解できると思う。



優勝

- 第一分団
- 第十五分団

準優勝

- 第九分団
- 第二十五分団

家族の支え

家族旅行

第15分団 団員家族 遠藤 歩香
柚木 在住

今回の家族旅行は、私と父と五歳の妹の三人での旅行となりました。初日は、ディズニースキーに行きました。今回の旅行には母がいなかったため、私が母の代わりをすることとなりました。ディズニースキーでは、家族でめいっばい楽しむことができました。我が家族でめいっばい楽しむことができました。我が家族でめいっばい楽しむことができました。

移動中のバスの中では毎回余興があり、私は、旅行に行く度にそれが楽しみでした。今回の余興は、本をやつと読めるくらいの幼児が、簡単な、なぞなぞの本を読んで大人が答えるというものでした。幼児は一生懸命読んでいるのですが、なかなか大人に伝わらず、みんな答えられない状況が続きました。バスの中は大変盛り上がり、あつという間に富士に着いてしまいました。

今回の旅行は母が居なくて大変でした。母はいつもこんなに大変なんだと実感させられました。今回の旅行は家族全員で参加をして、母を手伝い、家族全員が楽しめる旅行にしたいです。



DIG訓練

十一月二十一日(土)・二十九日(日)に富士市消防防災庁舎七階大会議室で、富士市消防団DIG訓練を実施しました。DIG訓練とは、大きな地図を使い、参加者全員で地域の防災対策などを考える災害图上訓練です。

「ふじのくに防災士」資格を保有している消防団員や消防団員OBが講師となり、分団ごと大きな管轄地図を囲み、熱心に訓練に取り組みました。



新入団員

「すみません、消防団に入りたいのですが…」

第9分団 団員 木下 佳威
日本軽金属㈱ 勤務



初夏を感じ始めた五月中旬、「消防団員になりたい！」その思いを胸に、市役所の隣にある消防本部へ入団希望で訪問しました。通常は各分団へ申し込むようで、少し驚いた様子の職員の方が印象的でした。

私は小さな頃からまちづくりセンターを活用しており、高校時代には地域行事や各種講座などのボランティアへ協力するようになりまして。そんなある日、まちづくりセンターに置かれていた「消防団だより」を手に取ったのが縁の始まりでした。そこには本来の職業を持ちながら災害が起きると身を挺して活動する様々な人々の姿が描かれ、憧れと小さな気持ちは生まれました。その後、近隣で家屋を全焼するほどの火災が発生しました。平日の深夜にも関わらず多くの消防車が駆けつけ、消防服を身にまとった火点を目撃して奮闘する消防団員の姿を目の当たりにしました。地域の為に一生懸命な姿に感動し、そして自分も地域の防災を支える一員になりたいと決意しました。入団後は一日も早く消防団員として活躍ができるように、分団の訓練をはじめ、心肺蘇生やAEDの使用方法を指導する応急手当普及員の取得、三輪消防車復元プロジ

エクトで他の分団や諸先輩方との交流を深めるなど充実した日々を送っています。入団して二年が経ち、第九分団の良き先輩たちにも恵まれ、温かなご指導のもと楽しくそして真剣に取り組むことが出来ています。「消防団員になって本当に良かった」です。消防活動を通して様々な人と接し、成長できていることを実感する毎日です。これからも市民の生命と財産を守る為、「自分たちの地域は自分たちで守る」を実践しながら日々活動していこうと思います。



富士市消防団
あなたの「力」を求めています

団員募集中!

お問い合わせ 富士市消防本部
☎ 55-2852

新入団教育を受けて

第16分団 団員 大石 裕子
下横割南 在住



五月三十一日、消防防災庁舎と富士市役所駐車場にて、新入団員教育を受けました。午前の部は、消防団員としての責任、心構え、概要、活動を学ばせて頂き、午後の部は、部隊訓練。指導員の模範を見学し、一つ一つの動作の確認をしながら教えて頂きました。

小型ポンプ操法、ポンプ車操法の訓練を指導員に行って頂き、操作方法の説明を聞かせて頂きました。その後、ホースの延長方法、巻き方、持ち方を習いましたが、ホースを投げても上手にまっすぐ延びず、巻くのも堅くしつかり巻かず、持ち方も決まっていって、実際持つてみると、思ったより重く、日頃の訓練が如何に大事か身にしみました。今年の一月に、団員の方から女性団員を募集しているとお声をかけて頂き、二月から入団させて頂きました。まだ実際に出動した事はありませんが、月に一度の手入れの時、ポンプ車の点検、放水訓練に身がひきまされる思いです。「女性で本当に大丈夫だろうか」不安でいっぱいですが、団員の先輩方の丁寧なご指導のもと、少しずつ不安もとれ、今では、一つでも身につけられるようにと思っています。五月の訓練の時、とても暑く、へこたれそうでしたが、実際に出動したら比べものにならないほど暑い

と思い「まだまだだな」と自分の甘さに情けなくなりました。これからは、女性でもできる活動があると思いますので、皆さんの意見に耳をかたむけ、地域のお役に立っている消防団員になれるよう頑張っていきたいと思います。



新入団員教育

第13分団 団員 池田 誠
富士本町 在住

私が消防団に入団したのは平成二十七年一月で、入団して早くも一年が経とうとしています。

消防団に入団したのは、大学を卒業して地元に戻り、地域のお祭りやイベントに参加していく中で、消防団の先輩方から勧誘を受けたことがきっかけでした。

消防団員として過ごしたこの一年は、何もかもが新鮮で新しい発見の毎日でした。なかでも新入団員教育は消防団員としての責任や心構えを学ぶと共に、私の防災に対する意識を大きく変えるものでした。

これまでの日々の生活では、まったく気にする事なかった消火栓の位置やAEDの場所に自然と目がいくようになり、又、家庭でも防災について話すことが増えてきました。

私はまだ、礼式やポンプ車操作などの知識や技術が未熟なので、今後の訓練を大切にして、実際の火災現場で足手まといにならないように精進していきたいと思っています。



新ポンプ車納車

ポンプ車更新

第29分団 副分団長 仲摩 佳一
木島 在住



平成二十七年十一月二十六日、二十二年ぶりとなるポンプ車の更新を迎える事となりました。更新に当たり関係方面の方々のご尽力に感謝いたします。

我々第二十九分団は日本三大急流の富士川西岸、富士市木島区を活動管内とし、望月分団長以下総勢十八名のメンバーで、消防団活動にまい進している小規模な分団です。今回の消防ポンプ車更新に当たり懐かしい思い出を紹介してみます。

私自身、旧富士川町消防団時代より数えて三台目のポンプ車となりました。一台目ははずの4トン車。二台目は日野の4トン車レンジャー。そして今回三台目として日野の2トン車 デュトロ。山間部が多い地区での4トン車では運転技術の向上にもつながり、多くの団員が普段は乗り慣れない4トン車の消防車で出動を重ねて来ましたが、新型車は2トン車とコンパクトになり、今まで活動が困難だった場所へも展開が出来る事を期待しています。

旧富士川町消防団時代の各種イベントでは、普通に見慣れた4トン車での体験試乗で、多くの子供たちを乗せて消防団のアピールに活躍して来ました。子供たちの「消

の消防車大きいよ!」と言ってくれるとつい笑顔で対応した事を思い出します。中でも平成七年、当時の清庵地区消防査閲大会ポンプ車操法部門で三番員として優勝し、4トン車で臨んだ静岡県大会、草薙運動公園駐車場に県下各支部で優勝したポンプ車が一堂に集まる中、4トン車は確か一台でした。他の出場チームからは「こんなでかい消防車で操法出来るのかよ?」「常設と同じサイズでタイム出るのかよ?」などと言われたのを横で聞いていましたが、少々自慢げに聞いていた事が今となれば一番の思い出となっています。

そして、富士市消防団へ編入当初は一回り以上も大きな車体で、別格扱いとなっております。

ポンプ車更新となった今、これからの消防団活動で無火災はもとより、各種活動では地域への貢献と団員の技術向上の為に、新たな思い出が残せる様に消防団活動と向き合っていきたいと思っております。



新型消防車の納車について

第12分団 班長 渡邊 修司
中野二丁目 在住

私が第十二分団に入団して約十一年が経ちますが、今までの消防車は納車から二十一年が経っていました。この消防車とはいろいろな思い出があります。寒い中行った早朝訓練、夜警では大淵全域を走り廻りました。特に思い出深いのはポンプ車操法の訓練大会に出場したことです。

私は一番員で直接消防車を操作する事はありませんでしたが、毎週の訓練で一層愛着がわきました。そんな消防車ともお別れです。

十一月二十六日、ついに新型消防車の納車日がやってきました。消防防災庁舎一階中央消防署車庫内で、市長をはじめ消防関係者が出席して消防ポンプ自動車引き渡し式が行われました。そこで新型消防車を初めて見ました。見た目では前の消防車より少し大きく、特に高さがあるように感じました。引き渡し式終了後、消防車の説明が納入業者から行われ、そこで改めて新型消防車の性能に驚かされました。スイッチを

押すだけで簡単に揚水することができ、真空ポンプ操作盤は、パネル式で分かりやすく見やすくなっています。また、収納スペースの多さ、その収納スペースにはLEDライトが付いていて夜間でも見やすくなっています。さらに、バックモニターが付いていて、車両後方が見えるようになっていて、使う人の事をよく考えて作られているなど感じました。

これからの第十二分団の活動の中でこの新消防車を使いこなし、前の消防車以上に愛着をもてるよう日々の活動に励みます。



消防団活動

消防団活動で気づいた事

第23分団 団員 望月 春希
久沢 在住

消防団活動は、火災の際に火を消すだけではなく防火にも力を入れています。今となつては当たり前ですが、まだ入団して間もない頃、現分団長に教えてもらいました。

消防団で活動をしていて、改めて火災を起さないために夜警や巡視がある事、地道な活動があるからこそ、昔に比べて火災が減っている事に気がきました。

また、夜警や巡視だけでなく、地域活動に参加した際に、地元の方とコミュニケーションを取り、行事が終わった後「ありがとう」と言われるとやりがいを感じます。

そして、消防団で知り合った先輩や後輩が、今では大切な仲間になりました。色々な事を経験し、悩みがあれば相談に乗ってくれ、もう一つの家族の様な存在です。消防団員になり、団員の仲間や地元の方と仲良くなれた事が、本当に良かったと思えます。

さあ、
自分の
街のこと。



消防団員募集





(上位)

- 1位 放火・放火の疑い
- 2位 たばこ
- 3位 火あそび

平成27年(一月～十二月)
富士市原因別火災発生状況

総出火件数……	84件
(種別)	
建物火災………	42件
林野火災………	0件
車両火災………	6件
船舶火災………	0件
航空機火災……	0件
その他の火災…	36件

平成27年(一月～十二月)
富士市火災発生状況

富士市消防団協力事業所表示制度

事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度で、複数の従業員を消防団員として入団させている事業所や、水火災等の災害時に事業所の資機材を消防団に提供する等の協力をするなど、消防団活動に積極的に協力している事業所その他の団体に対して、消防団協力事業所表示証を交付します。

また、認定を受けた事業所は、取得した消防団協力事業所表示証を敷地、建物等に表示できる他、パンフレット、チラシ、事業所ウェブサイト等にてPRすることができ、事業所のイメージアップにもつながります。



富士市消防団協力事業所の紹介

富士市消防団協力事業所
平成28年3月現在

- 1 富士市農業協同組合
- 2 富士トラック株式会社
- 3 株式会社 三和工務店
- 4 足場屋 勇仁
- 5 有限会社 佐野商事
- 6 佐野晶彦(不動産賃貸業)
- 7 平松建築
- 8 深沢消防株式会社
- 9 株式会社 川嶋組
- 10 佐藤豊店
- 11 有限会社 くらがなや
- 12 影山モータース
- 13 田中豊工業
- 14 合資会社 堀野紙工
- 15 有限会社 増田製袋
- 16 三角屋有限会社
- 17 名花堂
- 18 洒落一
- 19 三晃堂鍼灸治療院
- 20 中島工業所
- 21 潮屋
- 22 株式会社 するが齋
- 23 株式会社 大善工務店
- 24 有限会社 池田自動車工業
- 25 山本土産
- 26 合資会社 山田運送店
- 27 桑原左官工業

※登録順

体を動かすことが大好きな人。興味ある人は是非お問い合わせください。



FUJI RED FAIRY
カラーガード隊 隊員募集中

連絡先

消防本部 消防総務課
電話番号 0545-55-2851



編集後記

消防団だよりを発行するに当たり団員の皆様、団員ご家族様より多数の原稿を今年もお寄せいただきありがとうございました。

皆様からの寄稿を拝読させていただき、消防団活動に対する団員のひたむきな姿勢、家族の皆様のご理解、ご協力を改めて感謝を申し上げます。

さて、今年度を振り返ると、団員有志で復元した三輪消防車を消防出初式で披露できたこと、事業所の協力により、消防団協力事業所が大幅に増えたことなど富士市消防団にとって喜ばしいニュースがたくさんありました。

四月からの新年度を迎えるにあたり、我々消防団は今まで以上に地域と連携し、住民の皆様への期待と信頼に応えていけるようより一層努力してまいります。また、市民の皆様には消防団活動を少しでも理解していただき、一人でも多くの消防団員を増やすことができるようご協力をいただければと願います。

今後も皆様に親しまれる紙面作りに努力してまいりますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。

広報紙編集委員長

富士市消防団広報紙編集委員会

委員長

団本部 第三方面隊長 鈴木 貴之

副委員長

団本部 副総務部長 渡邊 明夫

委員

第二十五分団 班長 鈴木 信一

第四分団 団員 佐野 晶彦

第八分団 団員 仁藤 貴敏

第十三分団 班長 福島耕一郎

第二十六分団 係長 斉藤 正道

第二十三分団 班長 横内 信幸

第三十二分団 係長 神戸 邦明